

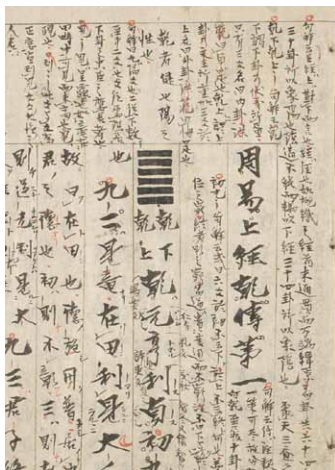
## メディアセンターによる企画展示

### 第32回 慶應義塾図書館貴重書展示会

#### 古代中世 日本人の読書

内容：慶應義塾図書館には450点を超える漢籍が貴重書として収蔵されている。今回の展示では古代中世の日本人の「読書」、とりわけ彼らが漢学を習得する上で学んださまざまな中国や朝鮮半島由来の漢籍、および博士家で秘伝された学問の伝授方法とその変容に焦点をあてた。将来必要な教養を幼い頃から段階的に身に付けさせる幼学書に始まり、成人後に貴族や武士たちが親しんだ代表的漢籍、難解な内容を学ぶための本邦撰述の注釈書など約100点を展示した。中でも初公開された『論語疏』は『論語』の伝世最古の写本として会期以前から複数の報道機関の取材を受けたこともあり、来場できなかった人も含め日本中の関心をひきつけた。監修者のギャラリートークは、新型コロナウイルス感染症予防対策のため事前ウェブ予約で先着20名に限定して2回開催した。来場者の消毒や混雑対策など従来にはなかった新たな留意事項も生じたが、会期を通して多くの熱心な来場者を得られ、大成功の展示会となった。（期間中の来場者は1,693名）

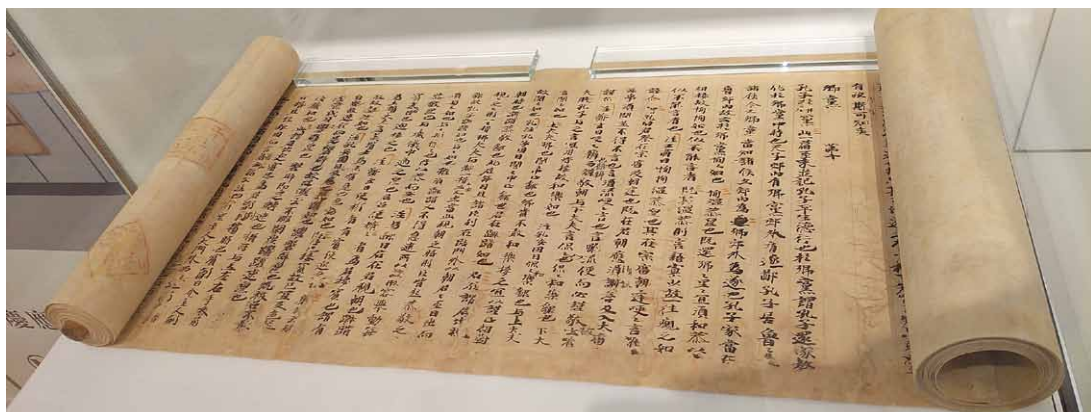
主催：慶應義塾図書館 協賛：丸善雄松堂株式会社  
 会期：2020年10月7日（水）～13日（火） 会場：丸善・丸の内本店4階ギャラリー  
 ギャラリートーク：10月9日（金）18時～、11日（日）15時～ 両日とも佐藤道生（名誉教授）



『周易』にみられる夥しい書入れ（学んだ痕跡）



佐藤道生名誉教授（展示監修）



初公開の『論語疏』—『論語』注釈書の一つで、展示品は6～7世紀初めに中国で書かれたとみられる写本「疏」は既存の注釈によってもわかりにくい意味を疎通するための書という意味

## 展示の準備

貴重書展示会は、監修を依頼した教員による企画と展示候補選定に始まり、実際にケースに収まるか試行する模擬展示・図録編集・キャプション執筆・パネル作成・各種広報など、約1年をかけて準備している。

新型コロナウイルス対策による大学キャンパスへの入構規制と、資料解題執筆のための貴重書閲覧時期が重なり、2020年の貴重書展示会準備は難航を極めた。

会期前夜の設営作業は、例年23:00前後までかかる。  
設営に参加してくださった佐藤道生先生  
山田尚子先生（成城大）・齋藤慎一郎氏（後期博士課程）



## ギャラリートーク

講師はフェイスシールド着用で話した。後日ウェブサイトに掲載する動画の撮影に加え、「三田評論」用の写真も撮影された。



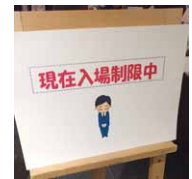
## 感染症予防対策



フェイスシールド、消毒液、手袋、展示ケース消毒用のキッチンペーパーなどを用意した。

スタッフはフェイスシールドを着用し、ギャラリートーク事前予約者は入口で検温を受けてから入場した。

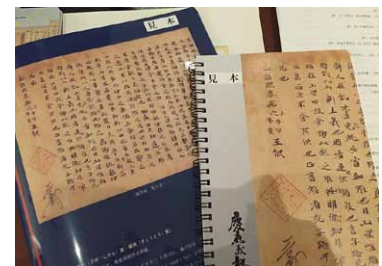
トーク時間外にグループでの来場もあり、会場内に40名程度が同時に入っていた場合は入場制限を行った。



## 図録・関連資料

今回の図録は、日本漢籍の体系的書籍として内外の研究者たちからの関心が非常に高く、完売・増刷となった。

目玉の展示資料である『論語疏』の関連グッズ（リングノート、クリアファイル）も販売された。



『論語疏』グッズ  
(社会・地域連携室制作)